

紙ふうせん

KAMIFUSEN No.99

成田市立図書館だより 第99号

2025(令和7)年3月1日発行

編集 成田市立図書館

〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3

<https://www.library.city.narita.lg.jp>

☎ 0476-27-4646 (自動応答)

0476-27-2000 (直通)

FAX 0476-27-4641



「いここに読み聞かせ」
吉田佳音さん、暁平さん



「本の虫」
鎌田 洸さん

「初めての絵本」
紬乃さん



.....
図書館開館40周年を記念して、「図書館・本との思い出フォト
コンテスト」を開催しました。心温まる写真をたくさん寄せて
いただきました。入選作は図書館ホームページで公開していま
すので、是非ご覧ください。(右のQRコードで一覧のページへ)
.....



開館40周年記念特集号

(紙面紹介)

- ・文学講座 「さまざまな本 さまざまな旅」
- ・市史講座 「房総の古墳文化を語る」
- ・「青春 HiROBA (アオハルひろば)」を設置しました

成田市制施行70周年・図書館開館40周年記念文学講座 「さまざまな本 さまざまな旅」

講師：椎名誠氏（作家） 2024.10.5（土）

今年は何周年記念として、作家の椎名誠氏を講師にお迎えしてご講演いただきました。成田市に来て、懐かしい気持ちになったという椎名氏は、幼少期を酒々井町や千葉市幕張町で過ごされています。

講座の冒頭で、酒々井に伝わる民話「二つの月」を引用して、自然豊かだった当時の思い出を語っていただきました。また、子どもの頃は泳いで遊べたのに、工業化で見る間に変わって行ってしまった千葉県の川や海の話など、貴重なお話を伺うことができました。

月刊誌『本の雑誌』で椎名氏とともに創刊に携わり初代編集長を務めた、目黒考二（ペンネームは北上次郎）氏とのエピソードも語っていただきました。あまり聞くことのできない、親しいお二人ならではの話を伺うことができ、参加者にも好評でした。

小学生の頃にヘディンの『さまよえる湖』を読んで旅に憧れ、その夢を抱き続けて大人になり、国内・海外の各地を旅する作家になった経緯や、『ガリバー旅行記』『十五少年漂流記』『恐るべき空白』といった冒険文学について、とても楽しそうに語る姿が印象的でした。



千葉県での思い出を語る椎名誠氏



時に笑い、感心しながら聞き入る参加者

椎名誠さん 著作紹介

『幕張少年マサイ族』 東京新聞 2021年
 『漂流者は何を食べていたか』 新潮社 2021年
 『わしらは怪しい雑魚釣り隊』 シリーズ 小学館 2013年
 『アメンボ号の冒険』 講談社 1999年
 『アド・バード』 集英社 1990年※日本 SF 大賞受賞
 『犬の系譜』 講談社 1988年※吉川英治文学新人賞
 『岳物語』 集英社 1985年
 他、多数

講座に登場した本

『恐るべき空白』
 アラン・ムーアヘッド / 著 早川書房 2005年
 『透明人間の告白』
 H・F・セント / 著 新潮社 1998年
 『透明人間』
 H.G. ウエルズ / 作 岩波書店 1992年
 『さまよえる湖』
 スウェン・ヘディン / 著 旺文社 1979年 他

成田市制施行70周年・図書館開館40周年記念市史講座 「房総の古墳文化を語る」

講師：若狭徹氏（明治大学文学部教授） 2024. 12. 1（日）

今回の市史講座では、古墳時代の社会構造の復元的研究に取り組まれている若狭徹氏を講師にお迎えして、房総の古墳文化について、ご講演いただきました。以下、若狭氏のお話を一部ご紹介します。



古墳文化について解説する若狭徹氏

関東地方の古墳はたくさんありますけども、関東で一番古い古墳は千葉県にあります。市原市の神門古墳群です。近畿地方系統と東海地方系統の土器が出ていまして、弥生時代の終わり頃に、近畿地方の影響を受けた豪族が千葉県にやってきて、造った古墳と考えられます。

関東のほかの県では、こんな古い古墳はないので、千葉県に最初に、海伝いで古墳文化が到達したというふうに言っていると思います。三浦半島から船で来て内房の港に着くと、そこで川船に乗せ替えて少し川を遡ります。川から一回船を揚げて荷を運んで、ちょっと行くと印旛沼に入り北浦を通って、またちょっと陸揚げしていくと那珂湊まで行くことができます。こういう陸路と水上交通をつないだようなネットワークが千葉そして成田にあるのです。

千葉の港で水先案内人を雇い、水を大量に積み込む、食料を積み込む。場合によれば船も建造してもらって、群馬用の船を造船してもらっています。ネットワークを組まなければ船で大陸まで行けませんから、そういうネットワークができていて、私は五世紀から六世紀は、千葉の港はバブルが起こっていて、千葉は儲かったのではないかと思います。ヤマト王権は地方豪族の力をかりながら、中国や朝鮮半島との関係を持っている。そういう港の在り方を海浜型前方後円墳が示していて、海のランドマークになっている。古墳は単なる墓ではなくて、ランドマークなのだということです。上総・下総の海運王たちの存在意義は、港湾を運営して物流を司る海運力・経済力で、ヤマト王権の主要メンバーとして対外活動に参加、関東各勢力の対外活動をタイアップし、後にはヤマトの王家の地方の有力勢力としてそれを支えて、ヤマト王権、上宮王家、聖徳太子の家などの軍事・経済の基盤となった。千葉の古墳を知ることで、このような日本史的な動きを知ることができるということになります。とのお話しでした。

本館2階で関連展示「公津原古墳群展-成田ニュータウンの古墳群を巡る-」を開催中です。展示をご覧ください、成田市内に保存されている古墳群を訪れてみてください。

「青春 HiROBA (アオハルひろば)」を設置しました



2024 (令和6) 年10月12日 (土) から、青少年向けのコーナーとして「青春HiROBA (アオハルひろば)」を本館2階に設置しました。コーナーには、学校での授業内容の理解を深める資料や調べ学習の助けとなる資料、小説や趣味の本などの10代にオススメの本や、進学や就職などの進路に関する資料を揃えています。

また、一人で集中して勉強に取り組むための個人閲覧席や、グループで話し合いながら学習するグループ閲覧席があり、学生が優先的に利用できます。



青春 (アオハル) ポスト

おすすめの本やイラスト、今ハマっていることなど、好きなことを書き込み投稿すると、司書からの回答やコメントが返ってきます。



学生向けワークショップ

「会話をしながら自由に活動できるスペース」や「好きな本などの情報を交換できる掲示板・ノート」がほしいなど、様々なアイデアが出ました。

コーナーの設置にあたり、学生向けワークショップ「中高生と作る！図書館プロジェクト 学生×図書館 ～図書館のこと、どう思う？～」を2024 (令和6) 年1月14日 (日) に行いました。コーナー名は、ワークショップ内で考えた案を基に、市内の公立中学校や義務教育学校に通う学生にアンケートを実施し、決定しました。

一人でも友達と一緒にでも、勉強したり一息ついたりできる場所として、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

編集後記

開館記念日の2024 (令和6) 年10月27日 (日) には、うなりくんが来館し、開館記念のしおりを配るイベントを行いました。図書館講座を始め、謎解きゲームやフォトコンテスト等の記念事業にも多くの方にご参加いただきありがとうございました。40年間のご愛顧に感謝するとともに、これからも、より良い図書館を目指し職員一同尽力してまいります。

成田市立図書館だより	No.99
発行	成田市
編集	成田市立図書館
〒286-0017 千葉県成田市赤坂 1-1-3	
	☎ 0476(27)2000
発行日	2025.03.01
登録番号	成教図 24-048



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。